

ナマステ！

ネパール便り第2弾をお送りします。

ネパールでは、8月中旬に大雨による洪水により、南側のインドに面した Terai 地域を中心に大規模な被害が発生しました。この洪水による死者は 160 人、行方不明者 29 人、負傷者 46 人、8 月末の時点で約 2 万世帯、10 万人以上の人が避難を余儀なくされました。



UNFPA Nepal 事務所の副代表が 10 月中旬に被災地でとった写真。道路沿いにまだ仮設住宅が並んでいます。@KristineBlokhus

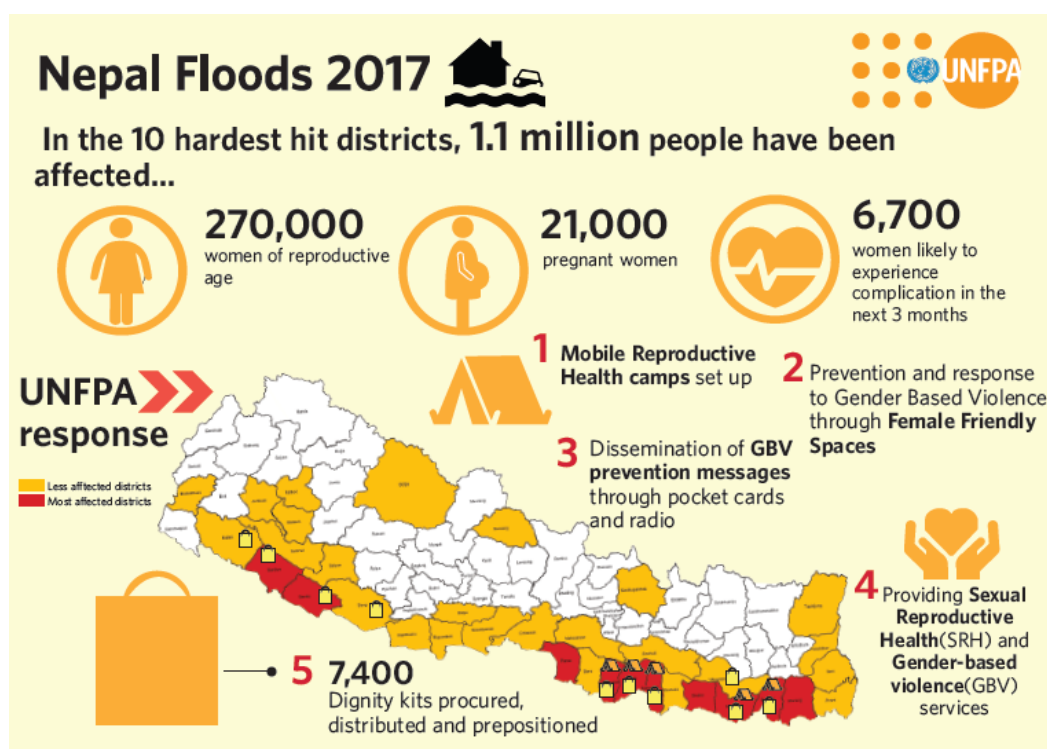
さてこのような災害が起きると、UNFPA は備蓄していた Dignity Kit（個別の女性に配られる生理用品や衣服などの入ったキット）や Reproductive Health Kit（病院などに配られる医療品等が入ったキット）を配り始めると同時に、更なる支援のため新たな資金申請を行います。今回は、国連中央対応基金(CERF)*と、UNFPA の中に設けられている緊急対応基金（ERF）の 2 つの基金に資金補助を申請しました。CERF からは、9 月 11 日にネパールに向けて 480 万米ドルの資金提供が発表されています。（*CERF への申請は他の国連機関との合同申請になります）

私は今回の災害で、申請書に必要な受益者数（UNFPA の場合は、被害者の中における妊娠・授乳中の人など）の計算と UNFPA 内部向けの状況報告（Situation Report ; SitRep）の作成を担当しました。

特に大変だったのが、受益者の計算です。UNFPA の場合は、MISP 計算表を使っておおよその受益者数を割り出します。MISP というのは「Minimum Initial Service

Package」の略称で、災害や紛争など人道的支援が必要な状況下において、リプロダクティブ・ヘルスの需要に応えるためにとるべき支援内容を定めています。予めすべき支援内容が定まっているので、わざわざ状況を査定する必要がなく、迅速に支援を行うことができます。

MISP の計算自体は難しくないのでありますが、基礎となる被害者数について災害発生当初では異なる数字が発表されるため、誰か一人が管理していないと申請する受益者数に違いが生じかねません。私は、本来数字に強くないのに・・・と思いながら、誰に聞かれてもすぐに数字が答えられるよう、しばらくはいつも MISP 計算表を手元に置いていました。



UNFPA の今回のネパール洪水の対応概要@UNFPA Nepal ウェブサイトより

ネパールの災害対応は、2013年に作成された国内災害対応フレームワークに従って、クラスター・システムの下で行われます。これはクラスター・アプローチと呼ばれるもので、紛争や災害時の人道的支援を効率的に行うため、10年ほど前から世界の人道的支援の現場でこのような方法がとられるようになってきました。クラスターは食料、水、住居など分野ごとに分かれています。UNFPAは、女性や子どもへの暴力からの保護などに取り組むプロテクション・クラスターをUNICEFと一緒にリードするとともに、保健のクラスターなどにも参加しています。

私は先日、プロテクション・クラスターに参加しましたが、政府、NGO、国連など様々な機関が平場で意見を交換するのを見ているだけでも非常に勉強になりました。とはいえ、ほとんどネパール語であったので、肝心なところが理解できなかったのは残念でした。もっとネパール語の勉強しなければ、との思いを強くしました。

ちなみに、ネパールでは2015年に大地震がありました。この際、日本政府からの援助により、UNFPAによる支援活動を行うことができました。この時の報告書は日本語になっていますので、ぜひご一読ください。

<http://tokyo.unfpa.org/ja/resources/ネパール地震の被災者支援のための日本政府からの支援-活動計画>



女性・子ども・社会福祉省で行われるプロテクション・クラスターの会議の様子

9月から10月にかけては、ネパールはお祭りシーズン。カトマンズからも一気に人がいなくなります。ちょうど日本のお盆と年末を合わせたような感じです。この間、いつもはひどい埃による公害も一段落し、久しぶりにマスクなしで生活することができました。アレルギー持ちの私は、毎夜、鼻水と格闘する日々が続きます。アレルギーに敏感な人は、カトマンズに来る際マスクをお忘れなく。

